

第2章 就学前の外国人の子どもへの学校生活指導・ 日本語指導の進め方

1 プレスクールでの「指導」の留意点

(岡田安代先生)

プレスクールでこれから指導をなさろうとする先生方に、指導にあたっての留意点を簡単に記しておきたいと思います。

(1) 子どもにとっての母語の意味

日本の学校に入学することを前提とする本プレスクールでは、学校に入ってから困らないように、集団の中で行動することや日本語の基礎能力を身につけること等が活動の中心になっています。しかし、では子どもの母語についてはどう考えるべきでしょうか。日本語の力を伸ばすことが第一で、母語はもう必要ないのでしょうか。

生まれた時からこれまで家庭の中で使われてきた母語は、子どもにとって非常に重要な言語です。最近の理論では、第一番目の言語(母語)が十分に育っていればいるほど二番目の言語(日本語)もよく育つといわれています。これは、逆にいえば、母語が十分に育っていないと第二の言語もよく育たないということを意味しています。

日本語をはやく上達させたいと思うあまり、家庭での母語使用を制限したり、友達との使用を禁止したりする場面を目にすることがありますが、それは逆効果と言わざるをえません。

(2) 母語消失の危険性

幼い子どもの場合、母語はまだ十分に確立されていません。この時期に新しい言語が入ってくると、二つの言語は競合し、触れる機会の多い言語に傾きます。子どもが保育園や幼稚園で日本語の世界に多く浸るようになると、しだいに日本語のほうがよく話せる言語になっていきます。

それでも、家で母語を話していれば、その母語が消えてしまうということを想像する人はそんなに多くはないでしょう。しかし、この時期の子どもは、言語を覚えるのも早ければ忘れるのも早いのです。努力して残そうとしない限り、日本語に触れる機会が多くなれば、母語は簡単に失われてしまいます。

母語を失うということはどういうことを意味するのか。親との会話の言葉を失うということです。幼児の間はまだしも、思春期になって人生の大切な問題を親と話したくても、その会話の言葉を失っているとしたら、どうなるのでしょうか。そして、なか

なか日本語がうまくならない親を軽蔑するというケースも出てくると言います。親を軽蔑すれば、その親から生まれた自分のアイデンティティをも否定することに繋がりがねません。母語はこうした意味でも、子どもにとって非常に重要なものということがわかります。

(3) 言葉のしつけ (言語教育のルール)

しかし、このように母語の重要性を説くと、中には、日本語を教えるのにも母語のわかる指導者が、母語を使って日本語を教えるべきだと思う人もいるかもしれません。母語で説明をしながら教えれば、両方の言語が覚えられて便利だろうと。そして、極端な場合には、「子どもの母語がわからなければ何も教えられない」と思いこんで、母語の話せない指導者は、指導をあきらめてしまうケースさえ出てきます。

しかし、幼児の言語指導に母語による説明や翻訳は要りません。この時期の子どもは、特別に教えなくても、条件さえ整っていれば自然に言語を習得する力を持っています。それは一つの言語だけではなく、二つの言語を同時に覚えることも可能です。

ただここで注意しなければならないことは、二つの言語を大人がミックスして使わないことです。この時期の子どもは、まだ二つの言語の違いをよく認識していません。その時期に大人が二つの言語を混ぜて使えば、子どももそのままに言語を覚え、大人が聞いても「何を言っているのか分からない」という状態に陥ることがあります。

両親の使う言語が異なっていて、生まれた時から二つの言語を同時に聞いて育つ子ども(同時バイリンガル)の場合、それぞれの親が使う言語を決めて、それぞれの言語で対応していると、子どもは自然に二つの言語を使い分けるようになると言います。

指導をする者は、このような言葉のしつけを大切にする必要があります。母語と日本語の両方が使える指導者も、二つを混ぜて使うのではなく、日本語で十分やりとりをしたあと母語で読み聞かせをするなど、使う場面を分けてやるとよいでしょう。

(4) 言語能力を伸ばす環境の整備

では、子どもの言語能力を十分に伸ばすためには、どのような環境を整えたらよいのでしょうか。それは意味のあるインターアクションをたくさん経験させることです。理解できる言語刺激が多くあるところで、言語の自然習得は最も伸びるといわれています。

理解できる言語刺激を与えるためには、指導者自身が、みずから使う日本語を客観的にみて多少コントロールする必要がある時もあります。赤ちゃんが母語を覚え始める時期にいきなり難しい日本語で話しかける大人はいないと思いますが、それが少し大きくなった子どもを目の前にすると、つい一足飛びに難しい日本語を使ってしまいがちのようです。

たとえば、イチ・ニ・サン・シ・ゴとようやく数がかぞえられるようになった子どもに、いきなり「ひとり・ふたり」や「三つはどれ？」などと聞いたりしないでしょいか。日本語の数詞にはイチ・ニ・サン・シという漢語の体系とヒー・フォー・ミー・ヨーという和語の体系があり、その両方を我々は日頃意識しないで混ぜて使っているわけですが、このようなことを意識しない問いかけは、少なからず混乱のもとになるでしょう。

日本語を母語として育ったものは、自分が使う日本語を振り返って意識するという経験があまりありませんが、日本語とは違う言語を母語として育った子どもを指導する場合には、このようなことも意識してみる必要があると思います。

(5) 文字の指導

また、子どもに日本語を教えようとする、まずは「ひらがな」次は「かたかな」・・・とつい文字の指導ばかりに目が行きがちかもしれません。しかし、文字はまず音声での言語理解があってこそ習得されるものです。たとえば五十音表を基に「あいうえお」と書く練習を繰り返せば、子どもは短期間に「あいうえお」と書けるようになるかもしれませんが、しかし、言葉を知らなければ、それを言葉として書くことはできません。文字だけを教えてもそれが意味のある言語刺激として使われなければ、すぐに忘れてしまいます。覚えた文字を言葉といっしょに使えるような工夫も必要でしょう。

(6) 沈黙期の存在

指導を始めると、何を問いかけても返事をしない、何も話さないという子どもに出会うことがあります。このような場合、つい「この子は言語習得能力に欠陥があるのか」と考えがちですが、小さい子どもの場合、しばしば「沈黙期」というものがあるということを知っていることも大切です。しかもその期間は、長い子どもでは1年も1年半も続くことがあります。

しかし、その沈黙の期間、子どもの脳は決して停止しているわけではありません。注意して観察すると、ひとりでぶつぶつと相手の言った言葉を繰り返していたり、簡単な返事の言葉を練習していたりします。そして、ある時、堰を切ったように話しはじめる場合も多いといえます。子どもを少し長い目で見守る姿勢も大切でしょう。

2 プレスクールの組み立て

プレスクールの組み立ては、次のような流れで行います。

1 情報収集 →3 (23ページ) へ

プレスクールの活動を開始する前に子どもの生育環境や日本語の力について情報収集をします。

(1) プレスクールの案内を作成しましょう。 →3 (1) (23ページ) へ

(2) プレスクール申込書と保護者への調査票を作成しましょう。

→3 (2) (25ページ) へ

(3) 幼稚園・保育園、外国人向け託児所関係者から子どもの様子を聞きましょう。

→3 (3) (27ページ) へ

(4) 子どもへの語彙調査をしましょう。 →3 (4) (30ページ) へ



2 指導計画の作成 →4 (31ページ) へ

集めた情報を参考にして、クラス編成、指導時間などを考え、教材教具を用意しましょう。



3 プレスクールのカリキュラム →5 (38ページ) へ



4 保護者や関係者との情報共有 →6 (52ページ) へ

プレスクールの活動を通じて得られた子どもの様子や情報を保護者、幼稚園・保育園等と共有し、さらに入学先の小学校へそれらの情報を繋げることが重要でしょう。

これらの過程では様々な個人情報扱うこととなりますので、事業主体として、適切に管理することが必要となります。

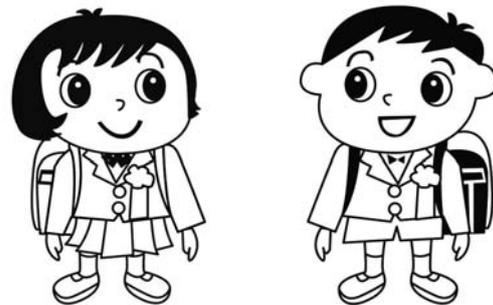
3 情報収集

(1) プレスクールの案内を作成しましょう。

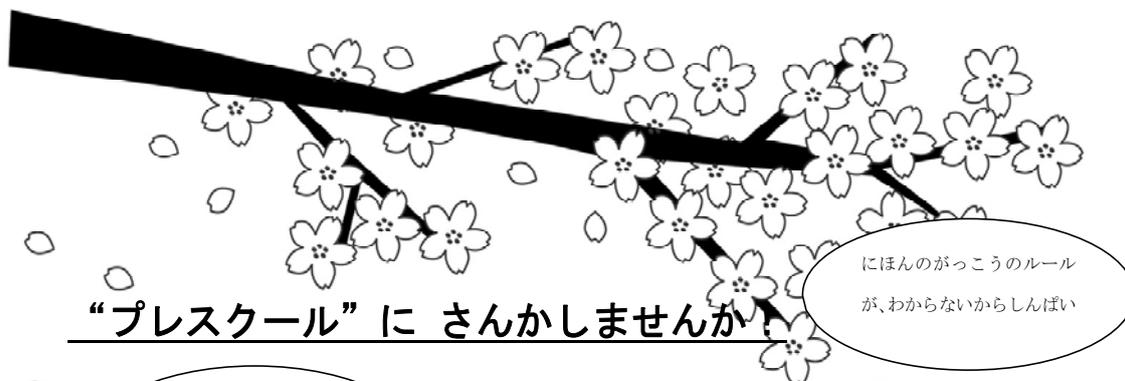
次年度に小学校に就学予定の子どもの保護者を対象にプレスクールの案内を作成し、参加を呼びかけましょう。

案内文には、次の様な情報を示すとよいでしょう。

- ① プレスクールの趣旨
- ② プレスクールの対象者
- ③ 会場
- ④ 開催期間・時間
- ⑤ その他
 - ・参加費用
 - ・保険（傷害保険等）
 - ・プレススクール開催中のけがや病気、緊急時（災害等）の対応
 - ・問合せ先
 - ・申込み方法
 - ・欠席連絡方法



<プレスクールの案内（例）>



“プレスクール”に さんかしませんか!

にほんのがっこうのルール
が、わからないからしんばい

こどもは、にほんごが
わからないけれど、しょうがっ
こうでこまらないかしら?



しょうがっこうにはいるまえ
に、がっこうのことをたのしく
おしえてもらえないかしら?

1. “プレスクール”とは:

しょうがっこうに ひつような にほんごや がっこうの ルールを、にゆうがく まえに
まなびます。プレスクールで がくしゆうする ことで、しょうがっこう せいかつが ス
ムーズに スタート できるように しえんします。

2. プレスクールの こども

2010ねんの 4がつに しょうがっこうに にゆうがくする こども

3. ばしょ:

とよはしょうちえん／はんだほいくえん／こまきこうみんかん／ちりゅうしょうがっ
こう

4. きかん・じかん:

2010ねん1がつ～2010ねん3がつ まいしゅう げつ・すい・きんようび
10:00～11:00

5. そのた:

- ・じゅこうりょうや きょうざいひは かかりません。むりょうです。
- ・けがや びょうきの ばあいは、ほごしゃに れんらくを します。
- ・やすむときは、かならず れんらくを してください。
- ・さんかもうしこみしょつきの アンケートを、○がつ○にち までに
だしてください。

といあわせさき: 〇〇-〇〇〇〇
(たんとうしゃ:)



2歳～3歳	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他の国	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 日本の保育園 <input type="checkbox"/> その他の国の幼稚園・保育園 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> その他（ ）
3歳～4歳	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他の国	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 日本の幼稚園・保育園 <input type="checkbox"/> その他の国の幼稚園・保育園 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> その他（ ）
4歳～5歳	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他の国	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 日本の幼稚園・保育園 <input type="checkbox"/> その他の国の幼稚園・保育園 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> その他（ ）
5歳～6歳	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> その他の国	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 日本の幼稚園・保育園 <input type="checkbox"/> その他の国の幼稚園・保育園 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> その他（ ）
1. お子さんは自宅で何語を話していますか？ 父親とは… <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他の言語（ ）語 <input type="checkbox"/> 日本語とその他の言語（ ）語 母親とは… <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他の言語（ ）語 <input type="checkbox"/> 日本語とその他の言語（ ）語 兄弟とは… <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他の言語（ ）語 <input type="checkbox"/> 日本語とその他の言語（ ）語 その他（ ）とは… <input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> その他の言語（ ）語 <input type="checkbox"/> 日本語とその他の言語（ ）語		
2. ことばの出始めはいつでしたか？ （ ）歳（ ）か月頃		
3. 家では何をして過ごしていますか？（複数回答可） <input type="checkbox"/> 兄弟と遊ぶ（何をしますか ） <input type="checkbox"/> 家の手伝いをして過ごす（何をしますか ） <input type="checkbox"/> テレビを見て過ごす ・日本のテレビ番組 ・その他の国（ ）のテレビ番組 ・両方のテレビ番組 <input type="checkbox"/> ゲームをして過ごす（誰と・・・ <input type="checkbox"/> 兄弟と <input type="checkbox"/> 父母と <input type="checkbox"/> 一人で） <input type="checkbox"/> おもちゃで遊んで過ごす（誰と・・・ <input type="checkbox"/> 兄弟と <input type="checkbox"/> 父母と <input type="checkbox"/> 一人で） <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 説明できない		
4. お子さんに絵本を読んであげることがありますか？ <input type="checkbox"/> 毎日 <input type="checkbox"/> 時々 <input type="checkbox"/> あまりない <input type="checkbox"/> ない		
5. アレルギーはありますか？ <input type="checkbox"/> はい（ ） <input type="checkbox"/> いいえ		
6. 同居している家族のなかで、日本の学校の経験がある方がいますか？ <input type="checkbox"/> 父 <input type="checkbox"/> 母 <input type="checkbox"/> 兄弟 <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> いない		
7. お子さんに関わる中で、何か配慮してほしいことはありますか？		

※このシートの内容について、プレスクール事業の実施主体において活用するほか、子どもの入学予定の小学校へ提供することに同意します。

日付： 年 月 日

サイン：

※ポルトガル語版は、資料集1「情報収集」（78ページ）にあります。

(3) 幼稚園・保育園、外国人向け託児所関係者から子どもの様子を聞きましよう。

① 幼稚園・保育園に通う子ども

幼稚園・保育園に通う外国人の子どもの中には、日本語が十分に分からなくても状況に合わせて行動し、園での日常生活で大きな支障がない限り、指導者の指示が理解できていると思われる子どもがいます。

例えば、他の子どもの様子を見て行動できる子どもの場合、「背の高い順に並んで」という全体への指示に対し、「背」「高い」「順」「並ぶ」という一語一語が分かっていなくても動くことができます。その結果、「日本語が分かる子ども」と判断され、日本語が理解できていないことが見落とされるということがあるのです。

しかし同時に、指導者からは、「ある場面では日本語が分かるように見えるし、別の場面では分かっていないように見える」といった話も聞きます。実際には子ども自身は困難さを感じていることがあります。

こうした子どもは、小学校に入学する時も「日本語が分かる子ども」と判断されがちで、教科学習に必要な日本語の習得に課題を残したまま、日本語指導の対象外として扱われていきます。そのため、日常会話はできるにも関わらず、いつの間にか教科学習についていけなくなるということがあります。

このマニュアルでは例として、幼稚園・保育園関係者に、集団場面と個別場面における「日本語の理解の様子」や「社会性の発達の様子」を尋ねる調査票の見本を載せていますので、参考にしてください。

② 外国人向け託児所に通う子ども

外国人の子どもたちの中には、早朝から夜遅くまで外国人向けの託児所で過ごす子どもがいます。こうした子どもの保護者は、子どもと接する時間が少ないため、託児所関係者のほうが子どものことを詳しく知っているということもあります。しかし入学先の小学校には、こうした託児所からの情報が伝わる機会が少ないのが現状です。

このマニュアルでは例として資料集1「情報収集」(82ページ)にポルトガル語に翻訳した外国人向け託児所関係者への調査票を載せていますので、活用しましょう。

＜幼稚園・保育園関係者を対象とした調査票（例）＞

保育園名：

子どもの名前：	担任名：
保育園ではどんな名前（愛称）で呼ばれていますか？	いつ入園しましたか？ 年 月
保育時間： ： ～ ：	送迎者：
出席状況： <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 時々休む <input type="checkbox"/> よく休む（月に 日程度休む）	
保育園終了後の居場所： <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 外国人向け託児所 <input type="checkbox"/> 知人宅 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
園からの大切な連絡をどう伝えていますか？	
1. 個別でのことばでの指示が分かりますか？ <input type="checkbox"/> ことばだけでよく分かる <input type="checkbox"/> ことばだけで概ね分かる <input type="checkbox"/> ことばだけで時々分かる <input type="checkbox"/> 身振り指さしを加えると時々分かる <input type="checkbox"/> 身振りを加えても分からない	
2. 集団でのことばでの指示が分かりますか？ <input type="checkbox"/> よく分かる <input type="checkbox"/> 概ね分かる <input type="checkbox"/> 時々分かる <input type="checkbox"/> ほとんど分からない <input type="checkbox"/> 集団では分からない	
3. 周りを見て集団行動ができますか？ <input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> 概ねできる <input type="checkbox"/> 時々できる <input type="checkbox"/> ほとんどできない <input type="checkbox"/> 全くできない	
4. 先生との関わり方はどんな様子ですか？（対人関係） <input type="checkbox"/> 自分から働きかける <input type="checkbox"/> 概ね自分から働きかける <input type="checkbox"/> 時々自分から働きかける <input type="checkbox"/> ほとんど自分から働きかけない <input type="checkbox"/> 全く自分からは働きかけない	
5. 他の子どもたちとの関わり方はどんな様子ですか？（対人関係） <input type="checkbox"/> 自分から働きかける <input type="checkbox"/> 概ね自分から働きかける <input type="checkbox"/> 時々自分から働きかける <input type="checkbox"/> ほとんど自分から働きかけない <input type="checkbox"/> 全く自分からは働きかけない	
6. 自由遊びのときに、どんな様子ですか？ <input type="checkbox"/> 誰とでも仲良く遊んでいる <input type="checkbox"/> 特定の子どものみ遊んでいる <input type="checkbox"/> いつも一人で遊んでいる <input type="checkbox"/> 他の子どもとの衝突が多い ・不特定の子ども／特定の子ども（ ）	
7. どんな遊びが好きですか？	
8. どんなタイプの子どもの様子ですか？	
9. 園の行事に保護者の方は参加されますか？ <input type="checkbox"/> いつも参加する <input type="checkbox"/> 時々参加する <input type="checkbox"/> 参加しない	
10. 特記事項（給食の様子など）	

(4) 子どもへの語彙調査をしましょう。

① 語彙調査とは何でしょうか。

就学前の外国人の子どもの日本語理解力を調べる標準化されたテストや調査は、まだ一般的になっていません。多様な生育歴や言語環境といった複数の要因が複雑に関与した結果として、目の前の子どものことばの育ちがあります。一つの見方だけで判断することには無理があり、子どもの個人差とその背景にある要因を明らかにするために、多くの目で見た情報を集めることが大切で、その情報収集の一つの方法として語彙の調査があります。

一般に小学校就学年齢の子どもの語彙数は約 4000～5000 語と言われ、語彙の量が教科学習の理解に影響があると言われていています。また、複数言語で育つ子どもたちは、同年代の一言語環境で育つ子どもたちに比べて、語彙数が少ないことが諸外国の調査では明らかになっています。

愛知県モデル事業のプレスクールでは、参加者の日本語理解の様子を客観視するために、豊橋市教育委員会の「小学 1 年生のための語彙調査」をプレスクール開始前に行い、指導計画を立てるための参考としました。これらの経験を踏まえ、プレスクールの指導に必要と考えられる語彙を再検討し、「就学前の子どもへの語彙調査」(→資料集2「語彙調査」(84ページ))を作成しました。

なお、この語彙調査は、100 語の絵カードを使って、絵の名前を言う簡便なものであって、言語発達の専門家が行うような標準化されたものではなく、その子どもの認知発達を調べるものでもありません。

② 日本語と母語の両言語で語彙調査をしましょう。

語彙調査は、可能な限り日本語と母語の両言語で行いましょう。その目的は「子どものことばの育ちを、得意でない一方の言語からだけではなく両言語から見ることで公平に判断すること」と、「ことばの発達に課題のある子どもを早期に発見すること」です。

例えば、愛知県モデル事業のプレスクール参加者の中には、語彙調査の結果が日本語も母語も 50%程度で、どちらのことばも年齢相応に育っていない子どもがいました。この子どもは、母親からは「日本語が話せるようになっているから母語はあまり上手ではない」、日本人保育関係者からは「母語は十分に話せるけれど日本語が分からない子ども」と捉えられていました。このような両言語ともに育っていない子どもは、日本語が分からないということ以外の別の課題を持っていることもあり、早期に支援を進める必要があるでしょう(→7(2)「特別支援が必要な外国人の子どもとプレスクールの活動」(56ページ))。

4 指導計画を作成しましょう。

(1) 指導対象の外国人の子どもの状況別指導内容

保護者への調査票、幼稚園・保育園、外国人向け託児所の関係者を対象にした調査票、子どもへの語彙調査の結果等を活用して、指導計画を作成しましょう。

① 幼稚園や保育園に通っている場合

子どもの様子と指導の基本方針	指導内容
日本語がよく分かり、集団参加もできている子どもの場合、幼稚園や保育園の活動を優先し、必要に応じて支援をします。	<ul style="list-style-type: none">・ 読み書きの指導・ 母語の大切さの啓発・ 保護者への情報提供・ 体験入学
日本語が少し分かり、集団参加ができている子どもの場合、日本語を補充するような活動を行います。	<ul style="list-style-type: none">・ 母語の絵本の読み聞かせなど、母語で認知力を高める指導・ 学校生活指導における日本語指導・ 母語の大切さの啓発・ 保護者への情報提供・ 体験入学・ 読み書きの指導
日本語が少し分かるが、集団参加に課題がある子どもの場合、集団参加が困難な理由を把握します。 ブレスクールの指導時間を確保し、生活のルールなどを丁寧に指導します。	<ul style="list-style-type: none">・ 母語が分かる指導者による学校生活指導・ 学校生活指導における日本語指導・ 母語の絵本の読み聞かせなど、母語で認知力を高める指導・ 保護者への情報提供・ 体験入学・ 読み書きの指導

② 外国人向け託児所に通う子どもや、不就園の子ども場合

一度の活動では理解できないことや定着しないことも多いので、活動回数も活動期間も十分に取る必要があります。

子どもの様子と指導の基本方針	指導内容
日本語が全く分からず、外国人向け託児所や自宅で過ごしている子どもの場合、 幼稚園や保育園への入園を勧める 一方で、プレスクールの指導時間も確保できるようにします。	<ul style="list-style-type: none">・ごっこ遊びやルールのある遊びを通しての集団生活体験・母語が分かる指導者による学校生活指導・学校生活指導を通しての日本語指導・母語の絵本の読み聞かせなど、母語で認知力を高める指導・保護者への情報提供・体験入学

(2) クラス編成

一部の集住地域を除いて、就学前の子どもは分散しており、愛知県モデル事業のプレスクールでは、子どもが10人以上になるような大集団での活動はしませんでした。参加者は、生育歴や日本語能力の個人差が大きく、それぞれの能力や目的を考慮して、2～3人のグループを中心に活動を行ってきました。

けれども小学校での生活にスムーズに適應するためには、社会性やコミュニケーション能力を伸ばす必要があります。特に、自宅で過ごしている不就園の子どもたちは集団での活動に参加したり、その様子を観察することはとても大切なことです。活動目的や子どもの状況、指導者に応じてグループの人数や構成メンバーを考えるとよいでしょう。

<活動の目的とグループの大きさ>

集団の規模	メリット	デメリット
大集団： 10人以上で活動する場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守る、順番を待つ、指示が集団に向けられて提示されても個人への提示と理解するなど、集団での行動を学ぶことができます。 ・モデルになる子どもの様子を見て真似たり、自分がモデルとなることで自信を持つなど、子ども同士で学び合うことができます。 ・多くの子どもを対象とする体験入学などに向いているでしょう。 <p><配慮点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の子どもが多くなればなるほど、子どもの日本語能力などに差ができ、指導者の準備の負担は増えますから、しっかり準備の時間を確保できるようにしましょう。 ・複数の指導者、特に子どもの母語が分かる指導者と連携することで有効に活動できるでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差への対応が難しく、特に日本語が分からない子どもへ読み書きの指導には困難が伴うかもしれません。
中集団： 5人程度で活動する場合	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語理解レベルや生育歴などのレベルを揃えることで、効率的な指導ができます。 ・社会性を伸ばす指導においても個々の様子が把握でき、指示が丁寧にできます。 <p><配慮点> 大集団同様、指導者の準備への負担は大きいでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差が大きい場合や、お互いの性格や相性によって集団の行動が左右され、指導が困難になることもあります。
小集団・個別： 1～2人で活動する場合	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の課題に丁寧な対応が可能であり、日本語が全く分からない子どもや集団参加に課題のある子どもに有効です。また、集中的な日本語や文字の指導にも適しています。 ・幼稚園や保育園に通い集団生活を経験している中で、特別に日本語や文字の学習のために、少人数の指導をすることは有効でしょう。 ・指導者と子どもの間に安定した関係が築きやすく、子どもが落ち着いて指導を受けることができます。 <p><配慮点> 社会性を育てるためには、体験入学など、大～中集団での指導と合わせて行うとよいでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その反面、学習態度や方法などのロールモデルになる子どもがいない、同じ年齢の子どもとのかわり方を学ぶ経験を得にくいというデメリットがあります。

(3) 活動時間と活動計画

この年齢の子どもは、まだ長い時間集中することが難しく、愛知県モデル事業のプレスクールでは、1回の活動時間を1時間以内として行いました。

活動の計画を考えるにあたっては、子どもの状況に応じて、子どものニーズに最適な活動を幾つか選んで組み立てるとよいでしょう。

<50分の活動計画（例）>

時間・活動	内容	
はじまり 5分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・パターン化された会話 (元気ですか、きょうは何月何日ですか 等) ・雰囲気作り、歌、リラックス体操 など ・今日の指導の流れの説明 	
活動1 10分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の復習的活動 	
活動2 10分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい活動 ・前回よりレベルを上げる活動など 	導入 活動 まとめ
活動3 10分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい活動 ・前回よりレベルを上げる活動など 	導入 活動 まとめ
活動4 10分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい活動 	ゲームや 読み聞かせ等
おわり 5分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の振り返りをしながら、学習カードにシールを貼るなど、達成感が感じられる終わり方をする。 ・最後は必ずほめて終わる！！ 	

- ・例として示した「50分の活動計画」では、1つの「活動」の時間を約10分程度としましたが、これは子どもの状況や指導者の経験などによって変わってきます。また、指導初期では注意と集中が長く続かず学習の持続が難しいこともあります。そうした場合には、短時間の活動を沢山準備する必要があります。しかし指導を重ねることで、集中力の持続時間は長くなり指導時間内の「活動」数は少なくなります。
- ・「話す」「聞く」「読む」「書く」といった様々な言語活動と、「体を動かす」「着席して活動する」など「静と動」の活動を組み合わせて、単調にならないように配慮するとよいでしょう。

＜プレスクール 60分の活動計画〔詳細〕（例）＞

カリキュラムに沿って、1時間の活動を組み立てます。活動の内容には「学校生活指導」「読む」「書く」「基礎的な算数の概念・数」などがあります。活動の目的は複合的になることがあります。この例では「読み」と「学校生活指導（日本語の語彙を含む）」としました。

時間	活動	内容	活動集 活用例	備考、留意点など
5分 程度	はじまり	あいさつ 点呼 T「〇〇くん」→S「はい」 パターン化された会話 「元気ですか」 カレンダーを見ながら「今日は何月何日ですか」など ♪あいうえおの歌	活動例1 活動のヒント7	<ul style="list-style-type: none"> 活動をある程度パターン化することで、子どもは次の活動を予想しながら行動することができるようになります。 歌や体操などは、活動の導入に適しています。
10分 程度	前時の 復習	既習のひらがなの読み ・1字ずつ ・2～3字の語彙での読み ことば、数などの復習	活動のヒント8	<ul style="list-style-type: none"> 1度取り上げただけでは記憶が定着しないことが多いので、同じ学習内容を複数回扱うことで定着を図りましょう。
10分 程度	活動1 (読み)	ひらがなの読み ・ひらがなの形の認識 <活動例> かるた、カードとり など ・ひらがな1字ずつの読み <活動例> フラッシュカード（一部隠し、早見せなど）、かるた（子どもに読む役をさせる）、ボールあて、宝さがしゲーム、50音表の七ならべ など ※愛知県のプレスクール事業では、1回に1行（5字）程度ずつ導入したことが多かったようですが、実際の子どもの習得の様子を見ながら調節してください。 ※子どもの進度によっては、2～3字の語彙での読みや、「あ」ではじまることばあつめなどもできるでしょう。	活動のヒント9 活動のヒント11 活動例9 活動例10 活動例12 活動例13 活動例14	<ul style="list-style-type: none"> 指導初期では注意と集中が長く続かず、学習の持続が難しいことがあります。そうした場合には、同じ学習内容であってもワンパターンに進めるのではなく、さまざまな方法で取り組むようにします。身体を使う活動を織り交ぜて楽しく活動することも有効です。その場合は、座る時間と、席を立て動く時間とのメリハリをつけるようにしましょう。 回を重ねるごとに、子どもの集中持続時間も変化するので、机に座っている時間が徐々に長くなるように活動を調節しましょう。

時間	活動	内容	活動集 活用例	備考、留意点など
10分 程度	活動2 (書き)	ひらがなの書き ・ひらがなの提示 正しい形、間違った形 ・書き順 ・そら書き 大きく書いたり小さく書いたり／空手のように書いたりバレーボールのように書いたり／全員でいっせいに書いたり一人で書いたり／先生の背中に書いたり友達の手のひらに書いたり ・フェルトペン書き ・鉛筆でシートに書く ・指導者が言った字を書きとり／黒板に書きとり ・2字をつなげて語彙として書く	活動例4 活動のヒント11	・鉛筆を持つのが初めての子どもに対しては、迷路やなぞりがきなど運筆を十分に練習してから文字を書く指導を行います。 ・書く姿勢、鉛筆の持ち方に注意を払うようにします。 ・とめ、はね、はらいなどは、間違ったまま定着しないように注意します。 (・「書き」については子どものレベルに合わせて指導するのがよいでしょう。)
10分 程度	活動3 (学校生活指導)	○語彙の導入例「体のこと」 頭、手、足、おなか、首、肩、背中、胸、腰 ① 指導者が自分の足を指さして「足」と示しながら語彙を導入します (新しく覚えたいことばは、2～3 つくらい提示して、様子を見ながら、少しずつ追加します。) ② 子どもがそのことばを聞いて分かるようにします。 ・指導者が「足」と言ったら子どもは自分の足を指します。 ・子どもが一人ずつでも言えるか確かめます。 ③ 子どもがそのことばを自分で言えるようにします。 ・指導者の身体や、人や動物の絵の一部分を見せ、子どもが「足」などと言えるようにします。 ・子どもの一人が「足」と言ったら、他の子どもと指導者は足を指します。 ・「〇〇ちゃんの手」と言ったら他の全員が〇〇ちゃんの手を触れます。	活動のヒント6 活動例6 活動例7 活動例8	・指導者が子どもの母語ができる場合も、できない場合も、活動にあたっての指示はできるだけ日本語で行います。ジェスチャーを活用することも大切です。 ・指導者が子どもの母語ができる場合は、ゲームのルール説明のときのみ母語を使う、活動時間内にはできる限り母語を使わないなど、区切りをつけて使用することが必要です。 (→次回の活動では、復習をして記憶の定着を図ることや、それを踏まえて「頭がいたい」といえるように活動を展開することなどが例として考えられます。)

時間	活動	内容	活動集 活用例	備考、留意点など
5分程度	片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードにシールを貼る ・学習プリントをファイルに綴じる 		<ul style="list-style-type: none"> ・シールや色塗りなどで、学習の終わりに達成感を感じられるようにしましょう。
5分程度	あそびや 読み聞かせ	自由遊び、集団遊び <ul style="list-style-type: none"> ・だるまおとし ・スーパーボールあつめ ・すごろく ・だるまさんがころんだ ・なわとび ・かげふみ など 絵本 <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ <p>自分が使ったおもちゃを片付ける</p>	活動例 15 活動例 24 活動のヒント3 活動のヒント4 活動のヒント5	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分の好きな活動を選ぶことができる時間を作ることで、自発的な発話の様子を観察する機会にもなります。 ・遊びを通じて、日本語での表現を新しく覚えたり、数や形の復習をしたりできる機会となるようにします。そうした目的に合ったおもちゃを複数用意しておくのもよいでしょう。
	おわり	あいさつ		<ul style="list-style-type: none"> ・最後は必ずほめて終わるようにします。

